



7月5日に、年長児と役員さんと久山さんで、大学構内の竹藪から4本の竹を運んで来てもらいました。1本はホールに飾るものにし、後の3本は配付用の笹にするため役員さんが枝を落としてくださいました。

この日は毎年お天気がことが心配です。今年は台風一過の晴天を想像していたのですが残念ながら、いつ雨が降り出すかわからない空模様だったため、レインコートを着ての出発となりました。途中パラパラと降り出してフードを被ったり、脱いだり・・・蒸し暑かったのですが、年長児は「暑い」とも言わず「わっしょい、わっしょい」「えっさ、ほいさ」と掛け声をかけながら運んでいました。そして年長児の到着を待ちかねていた年中・年少児が「おかえり！」と拍手と歓声で迎えてくれた時には、子どもながら、「しんどさ？も吹き飛んだ」という表情になっていました。

翌日、全長10m近い竹にみんなで作った笹飾りと、年長・年中児は短冊に願い事を書いて自分で笹に結び付けました。皆さんのお家でも、それぞれに可愛い笹を飾られたことでしょう。今年のホールの竹は、1年ものの竹ではなかったので、葉っぱがくるくると丸くなってしまふことなく、飾りの色と緑の葉っぱがとても綺麗でした。1年物の竹だと、明るい緑色ですがすぐに葉っぱが丸まってしまうそうです。竹も年齢によって違いがあるんですね。

7月7日は、天井に届くほどの大きな笹飾りを前にして、「七夕まつり」の集会を持ちました。年少児にとっては、入園式以来の大きな集会でしたが、3ヶ月の成長は目覚ましく、人形劇やコーラスに興味を持って見聞きしていましたし、自分たちの歌を大きい組に聞いてもらうことも張り切っていました。集会終了後、お部屋に戻った年少児の第一声が「たのしかったあ〜！」であったということを知り、自分のお部屋とホールの違いやそこで行なわれた集会を、【しっかり受け止め味わった感想】であることに、自主性の芽を感じました。

七夕まつり

- ☆ 笹飾りを見ながらのお話
- ☆ みんなで 「たなばた」のうた
- ☆ 人形劇部のお母さん 人形劇「たなばた」
- ☆ 年少児のうた「プールのうた」
- ☆ 年中児のうた「波と貝殻」
- ☆ 年長児のうた「誰かが星を見ていた」
- ☆ コーラス部のお母さんのうた
「椰子の実」「きらきら星」
「ほしとたんぼぼ」「手のひらを太陽に」
- ☆ みんなで 「おほしさま」のうた



七夕が終わり、子どもたちが作った飾りを外した笹を「ごみ」にしてしまうのは忍びないので、20日の夜に行なう年長児のファイヤーストームで燃やし、天に願いを届けようと思います。ご希望の方は、15日(土)までに飾りをすべて外した笹だけを、ホールの前の箱に入れておいてください。